



医薬品アクセスプロGRESSレポート 2024

医薬品アクセスへの 統合的な 取り組みで 持続的な インパクトを

目次

社長CEOのメッセージ



医薬品アクセスに対するアプローチ



患者さんの費用負担軽減



医療制度の強化



統合的な事業戦略を通じた持続的な
インパクトの創出



パートナーの視点



未来を見据えて



社長CEOのメッセージ

タケダでは常に、患者さんを第一に 考えて行動しています。

私たちはタケダの価値観に基づき、イノベーションを追求する姿勢と共に疾患と正面から向き合い、世界中の患者さんの健康に寄与する治療薬やワクチンを創出しています。

しかし、そうした治療薬やワクチンを最も必要としている人々にそれが届かなければ、そのイノベーションは意味のないものになってしまいます。

医薬品への持続可能で公平なアクセスの重要性は、かつてないほど高まっています。現在は、不安定な経済情勢ゆえに医療に関する予算が圧迫され、結果的に人々が必要な治療を受けるための環境が制限されているという状態です。さらに、地政学的に不安定な状況が続き、さまざまな変化が起こっていることで、サプライチェーンも打撃を受け、医療インフラにも穴が開き、すでに脆弱な医療制度にさらなる課題が突きつけられています。特に大きな影響を受けているのが、低中所得国（LMICs）です。

気候変動が健康に及ぼす影響も、ますます拡大してきています。暑さに関連する疾患や多くの慢性疾患で、その頻度と重症度が上昇している上、異常気象によって人々のライフスタイルが変わり、食料安全保障にも問題が生じています。

なかでも、デング熱をはじめとする蚊が媒介する疾患の流行は、気候変動による決定的な影響と言えるでしょう。旅行や都市化などの要因に加え、デング熱を媒介する蚊の生息地が気候変動により拡大しているからです。その結果、デング熱の感染者数が増加しただけでなく、世界の新たな地域でもデング熱が流行する事態となりました。そこでタケダは、私たちの価値観に基づき、統合的かつアクセスを第一に考えたアプローチで、デング熱ワクチンの展開に取り組んでいます。優先するのは、ブラジルやインドネシアなど、この疾患による負担が大きな地域です。さらに私たちは、どの国でも人々が手の届きやすい価格でワクチンを接種できるようにするための活動をしており、タケダのデング熱ワクチンは最初の承認からわずか2年で、世界40カ国で承認されるまでになりました。

「医薬品アクセスは、私たちのグローバルな事業戦略に組み込まれているだけでなく、私たちを突き動かす原動力そのものでもあります」

医薬品アクセスは、私たちのグローバルな事業戦略に組み込まれているだけでなく、私たちを突き動かす原動力そのものでもあります。私たちは創薬の初期段階から臨床開発、販売に至るまでのすべての過程で、医薬品アクセスを考慮しています。

タケダでは、持続的で意義のあるインパクトをもたらすことを念頭に、医薬品アクセス戦略を策定しています。十分に医療を受けられていない地域の患者さんが持続的に医薬品を利用できるようにするには、パートナーの協力を得て、治療の障壁を解消し、医療制度全体を強化する、統合的なアプローチが必要です。デング熱への世界的な取り組みに私たちが参加しているのも、そうした統合的なアプローチの一例になります。

もちろん、私たちだけの力で長期的な変化を生み出すことはできません。この目標を達成するには、医療従事者、NPO、NGO、そして患者さんとの深い信頼関係が必要です。

本レポートでは、私たちの活動によるインパクトについてパートナーの声を直接お届けします。また、デング熱との闘いや医療制度の強化、患者さんの治療を阻む地域の障壁への対応など、私たちの活動についても詳しくご紹介します。なお、こうした取り組みは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献することに熱意を持って取り組む、タケダの全従業員の努力なしには実現できません。

本レポートには、持続可能で公平な医薬品アクセスの実現に向けて強い決意で前進を続ける私たちの姿が示されています。このレポートが、新たなアイデアや対話のきっかけとなることを願っています。タケダの挑戦はこれからも続きます。今後も引き続き前進していかれることをとても楽しみにしています。



クリストフ・ウェバー

タケダ 代表取締役 社長 CEO



医薬品アクセスに 対するアプローチ

タケダのアプローチ： 患者さんを中心に、包括的かつ協調的に

医薬品アクセスのための活動とは、個々の患者さんの状況にかかわらず、患者さんがタケダの革新的な治療薬やワクチンを利用できるようにすることだけを指すものではありません。政府や医療従事者、NGO、保険会社、その他のステークホルダーと信頼関係を構築し、医療的ケアをお届けできるよう連携していくこともこの取り組みの重要な要素です。こうした活動を行うことで、各地域の患者さんのニーズに持続可能な形で応えられる有効なプログラムを構築できるようになります。

患者さんが必要な治療薬やワクチンを利用できない背景には、体系的な障壁があることが少なくありませんが、こうしたアプローチをとることで、その障壁の解消に取り組むことができます。私たちはこの数年、研究開発から品質管理、渉外活動に至るまで、事業のあらゆる側面に医薬品アクセスへの取り組みを取り入れてきました。低所得国（LMICs）では、医薬品アクセスを阻む障壁が多数存在し、またそれらが複雑であることも少なくありません。そういった国に住む患者さんをはじめ、タケダの治療薬やワクチンを最も必要としている人々にこれらを確実にお届けするには、こうした包括的な取り組みが極めて重要になります。

タケダの治療薬やワクチンへのアクセスを拡大させようとする試みは、私たちの価値観や企業理念に沿うものであるだけでなく、企業戦略の一環でもあります。暮らしを豊かにする革新的な医薬品は、患者さんがそれを利用できるようになって初めて、患者さんと社会、そしてタケダの事業に価値を創出するのです。

タケダでは、居住地や経済状態にかかわらず、すべての患者さんが私たちの治療薬やワクチンを必要なときに利用できる、持続可能で公平な医薬品アクセスを実現することを、すべての重点疾患領域を通じた目標としています。

 希少疾患

 血漿分画製剤 (PDT)

 消化器系疾患

 ワクチン

 オンコロジー（がん）

タケダのアプローチは、以下の3つを柱にしています。

1: 患者さんの費用負担軽減

段階的な価格設定、患者さん一人一人の経済状態に合わせた患者支援プログラム（PAP）、医療価値に基づく価格設定を通じて、革新的な医薬品への経済的な障壁を取り除きます。

＞ 詳細は8ページをご覧ください。

2: 医療制度の強化

疾患啓発、検診、診断から、治療および患者さんへの支援に至るまで、パイシエントジャーニー（患者さんがたどる過程）全体にわたって、医療制度における医薬品アクセスの障壁を取り除きます。

＞ 詳細は13ページをご覧ください。

3: 統合的な事業戦略を通じた持続的なインパクトの創出

医薬品アクセスを事業戦略に組み込み、研究開発から販売まですべての活動に取り入れます。

＞ 詳細は17ページをご覧ください。

「私たちは革新的な治療薬やワクチンを、最も必要とされるときに、最も必要とされるところにお届けできるよう、持続可能で公平な医薬品アクセスを実現するための努力を重ねてきました。

統合的な事業戦略とパートナーとの連携を通じて、アフォーダビリティ（医薬品の金銭的な面での利用しやすさ）の障壁を解消し、医療制度を強化し、患者さんと社会のために価値を創出しようとしています。

私たちを取り巻く世界は変化を続けています。その変化のスピードに遅れず前進していくには、人々の声に耳を傾け、適応し、連携し続けることが重要です。

低所得国の人々にタケダの治療薬やワクチンをお届けできるようタケダが実施してきた、そして現在も実施している活動に、私は心から誇りを持っています。今もより良い成果を求めて努力を止めないパートナー、従業員、そして経営陣に感謝の言葉を贈ります」

ミシェル・アーウィー

タケダ 医薬品アクセス グローバルヘッド

「私たちは日々、患者さん、特に低中所得国に暮らす患者さんが必要な医療や治療を受ける際に直面している障壁を目の当たりにしています。

だからこそ私たちは、既存の販売モデルをグローバルレベルで見直し、段階的な価格設定や患者さん一人一人の経済状態に合わせた患者支援プログラム（PAP）、診断や医療従事者のトレーニングを導入したのです。

また、患者さんが必要な医療を受けられない要因となることもある、アフォーダビリティ（医薬品の金銭的な面での利用しやすさ）、持続可能性、公平性に関する課題は、現在ますます拡大していますが、そうした課題に対応できるよう、タケダでは現地の医療制度の支援にも力を注いでいます。私たちは、政府や国際機関、現地の組織など、医療に関係するステークホルダーと緊密に連携することで、医療の障壁を取り除き、人々の暮らしへの効果が最大限になる形で、可能な限り迅速に治療薬やワクチンをお届けしようとしています」

ラモナ・セケイラ

タケダ グローバル ポートフォリオ ディビジョン プレジデント

インパクトの測定に対するアプローチ

インパクトの測定は、私たちが前向きで持続的な成果を生み出していることを確認するための鍵となります。

私たちは、タケダの価値観を道しるべとし、1. 患者さんに寄り添い（Patient） 2. 人々と信頼関係を築き（Trust） 3. 社会的評価を向上させ（Reputation） 4. 事業を発展させる（Business）という優先順位に基づいて事業上の意思決定を行うことで、企業としての責任を果たします。私たちは、タケダのステークホルダーにとって、比較可能で、有意義で、価値のあるものとして、患者さんアクセスに関する指標を採用しています。

この指標において、最も意義のある目標とは、各疾患や治療領域で必要とされるさまざまなアプローチに対応していること、そして現地の医療制度が直面する特定の課題に対応していることだと私たちは考えます。また、タケダが数々の革新的な医薬品を創出していること、患者さんに医薬品をお届けするために地域に密着したアプローチをとっていることを踏まえると、医薬品アクセスへの取り組みのインパクトを正しく測定するには、全体の集計データに加え、それらをケースバイケースのレポートで補完していく必要があると考えます。



タケダの医薬品アクセス施策の概要

持続可能で公平な医薬品アクセスを実現するには、患者さんに医薬品をお届けするだけではなく、患者さんが必要なケアや治療を受ける上で障壁となっている幅広い体系的課題に取り組んでいかななくてはなりません。

医薬品アクセスの改善に向けた私たちの取り組みはグローバルなものです。と同時に私たちは、医療制度が発展途上にある国では、この医薬品アクセスを阻む障壁が特に複雑であることも理解しています。そのため私たちは、最もニーズの高い低中所得国における医療制度の強化に注力しています。

81

医療制度強化プログラムを実施している低中所得国の数

16

患者さん一人一人の経済状態に合わせた患者支援プログラム（PAP）*を実施している国の数（複数のプログラムを実施している国もあります）

*PAPは、革新的かつ協調的な経済支援モデルを通じた、医薬品のアフォーダビリティ（医薬品の金銭的な面での利用しやすさ）を高め、患者さんが医療を受けやすい環境をつくるタケダのアプローチです。



患者さんの 費用負担軽減

1: 患者さんの費用負担軽減

多くの低中所得国では、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ¹の実現を目指し、数十年前から大きく前進を遂げてきましたが、その勢いは減速傾向にあり、近年は完全に停滞してしまっています。

世界保健機関（WHO）によると、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ指数は2000年から2010年の間に45から68に上昇したものの、2015年以降の上昇はわずか3ポイントで、2019年以降はまったく変化がありません²。すべての人々が医療を受けられる環境を確立し、医薬品アクセスを持続可能なものにする上で、依然として大きな障壁となっているのがアフォーダビリティ（医薬品の金銭的な面での利用しやすさ）です。

私たちは、居住地や経済状態にかかわらず、すべての人々に革新的な治療を受ける権利があると考えています。この問題に対処する上で最も効果的な方法の一つは、国の償還プログラムです。医療に対する政府支出がGDPの5~6%以上に達すると、医療サービスの支払いが困難になる世帯が減少するとの調査結果もあります³。

しかし、不安定な経済状況が続く中、政府による医療費の支出は抑えられる傾向にあり、国の償還制度が発達するまでには今後何年かかかる可能性があります。

このアフォーダビリティの溝に今対応するため、タケダでは、政府、産業界、その他の経済的支援パートナーを巻き込んだ複数のステークホルダーによるアプローチを推進しています。こうした協調的な活動は、アフォーダビリティの障壁を取り除くためだけでなく、持続可能な医療アクセスの確保のためにも、極めて重要です。

私たちは、アフォーダビリティの溝を埋め、患者さんのために持続可能で公平な医薬品アクセスを実現するため、多層的なアプローチをとっています。

段階的な価格設定

段階的な価格設定とは、経済発展や医療制度の成熟度など、その国特有の状況に応じて、価格帯を調整する枠組みです。その目的は、患者さんにタケダの革新的な医薬品をお届けするにあたり、価格に伴う障壁を解消することで、患者さんが革新的な医薬品を持続的かつ公平に利用できるようにすることにあります。

患者さん一人一人の経済状態に合わせた患者支援プログラム(PAP)

PAPは2017年に立ち上げました。以来私たちはこのプログラムを通じて、タケダの革新的な医薬品を利用することが難しい患者さんを支援し、そうした医薬品を利用できるようにしてきました。この独自のプログラムでは、個人の経済状況に応じた経済的支援を行うことで、患者さんに医療への道を提供しています。ここで重要なのは、PAPによりタケダの支援が持続可能なものとなり、対象となる患者さんは、経済状況に阻まれることなく、医師から処方された治療を最後まで受けることができるという点です。

医療価値に基づく価格設定

医療価値に基づく価格設定は、タケダの革新的な医薬品の実臨床での治療結果や経済的なインパクトに関する不確実性に対応する保険者や医療提供者のニーズに応えるものです。私たちは現地のニーズに合わせて医療価値に基づく販売契約を締結することで、患者さんがタケダの医薬品を利用しやすい環境をつくり、それらの医薬品で貢献できる患者さんを増やしていこうとしています。さらにこの取り組みは保険者にとっても有益で、これにより保険者は、臨床や予算上の影響や医療制度の持続可能性といった不確定要素に対応しやすくなります。

28

全世界における患者支援プログラム（PAP）の実施数

7,245

2017年以降にPAPに登録した患者さんの数

1. <https://www.who.int>
2. <https://www.who.int>
3. <https://cdn.who.int>

ケーススタディ

インドにおいて、革新的な治療方法への 広範かつ早期のアクセスを促進するために

インドでは、疾患全体の中で非感染性疾患（NCD）が占める割合が拡大しており、国内死亡者数の約60%を占めるまでに至っています¹。その中でも最大の割合を占めるのががんで、専門家によると、インドでは9人に1人が生涯のうちにがんに罹患する可能性がある²と推定されています。

しかし、州ごとに医療の運営体制が異なるなど、医療エコシステムが複雑で、なおかつ医療費の自己負担率も高いため、富裕層を除く多くの人々にとって医薬品は手に届きにくいものとなっています。

2023年、タケダはホジキンリンパ腫に対する治療薬をインドで上市しましたが、その際にはどの患者さんも早期に、また公平に、この医薬品を利用できるよう、支援プログラムも同時に始動させました。

インドは国土も広く医療制度も複雑であるため、ホジキンリンパ腫の治療支援プログラムを効果的に実施するには、現地当局の優先事項に沿って活動するだけでなく、医薬品アクセスのためのアプローチと合わせて市場アクセス戦略を遂行するといった、タケダ全体での包括的なアプローチも必要になります。

当社の推計では、最初の1年間にホジキンリンパ腫の治療を受けた患者さんの数は、アフォーダビリティ（医薬品の金銭的な面での利用しやすさ）に基づくプログラムが実施されなかった場合の5倍以上に及んでいたという結果が出ています。

私たちは、インドにおけるアフォーダビリティの溝を持続的に解消していくため、特に罹患数の拡大状況を考慮し、さまざまなステークホルダーとの連携を通じた取り組みに注力しています。そのためタケダの支援プログラムをベースとしつつも、多岐にわたるパートナーと協力して私たちのアプローチをより良いものへと洗練させることで、資金源を新たに拡大し、医薬品アクセスの幅を広げられるようにしようとしているのです。

5倍

タケダのアフォーダビリティに基づくプログラムがなかった場合と比較して、支援を受けられたインドの患者さん数

2024年10月のタケダ独自のデータに基づく

1. IQVIAによる独自分析
2. <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov>



ケーススタディ

エジプトにおけるユニバーサル・ヘルスケアへの取り組みと合わせ、革新的な医薬品へのアフォーダビリティ（医薬品の金銭的な面での利用しやすさ）の障壁の解消を目指す

エジプトでは、2032年までに起こる急激な人口増加に向け、政府がユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の確立を目指しており、この国の医療制度は急速な変革期を迎えています。しかし、これほどの規模の制度移行には時間がかかります。

私たちは、医薬品と医療への持続可能で公平なアクセスを長期にわたり実現していくには、官民パートナーシップとさまざまなステークホルダーによるアプローチが不可欠であると考えています。その信念に基づき、多岐にわたるステークホルダーと緊密に連携して同国のUHCへの取り組みを支援し、アフォーダビリティの障壁解消に取り組んでいます。

アフリカで3番目に人口の多い国¹であるエジプトで医療を利用しやすい環境をつくることは、決して容易なことではありませんし、この国に合わせた戦略も必要になります。同国でUHCのための戦略が段階的に実施される以前は、がん治療費の70%が患者さんの自己負担で、償還対象はわずか30%でした²。つまり、ほとんどの患者さんは治療を受けようにも、そこにはアフォーダビリティの大きな壁があり、革新的な医薬品に手が届かなかつたり、膨大な治療費で家計を圧迫されたりする事態に陥っていたのです。

治療を受けるための金銭的余裕がないがん患者さんが新たな道を見つけられるよう、タケダは一つの革新的なアプローチを採用しました。それは他の機関と協力して、個々の患者さんの経済状況を評価することで、それぞれに合った経済的支援を提供しようという取り組みでした。

武田エジプトのジェネラル マネジャーであるサミー・カリルは、次のように述べています。「私たちは新しいコンセプトを打ち出し、ホジキンリンパ腫に焦点をあてた小規模なパイロットプロジェクトをカイロで開始しました。現在では、患者さん一人一人の経済状態に合わせた患者支援プログラム（PAP）を通じて、対象となる患者さんが医薬品を利用し、処方された治療コースを最後まで受けられるよう、支援活動を全国で展開しています」

エジプトにおけるPAPの拡大は地理的な拡大に留まりません。ホジキンリンパ腫の治療における成功に勇気づけられた私たちは、エジプト政府だけでなく、国内の多くの病院や医師たちと連携し、このプログラムの適用範囲を他の疾患領域へと広げようとしています。

私たちは今後も、UHCの実現に向けて取り組む同国の医療制度と足並みを揃え、またその取り組みを支援しつつ、持続可能な経済的支援モデルを模索していきます。

「従来の治療方法では効果がなく、私の心は深く沈んでいました。そんなとき、タケダのPAPを通じて標的治療を受けられると医師から伝えられました。手続きは迅速でしたし、投薬が始まると、心は落ち着き、安心感さえ覚えました」

カリム・アミン

エジプトでPAPを通じて治療を受けた患者さん

～530人

経済的に治療を受けられなかったものの、PAPを通じて治療を最後まで受けられるようになったホジキンリンパ腫の患者さん数（2017年以降）

2倍

ホジキンリンパ腫の治療を受けられた患者さん数

プログラムの対象を革新的な医薬品を提供できる新たな疾患領域へ

拡大

2024年10月のタケダ独自のデータに基づく

1. <https://www.globaldata.com>

2. IQVIAによる独自データ

ケーススタディ

ブラジルで Dengue 熱ワクチンの接種拡大を 加速させる効果的な連携を実施

ブラジルは Dengue 熱の罹患率が世界で最も高い国であり、その脅威の深刻さはますます増大しています。2024年には、Dengue 熱の感染者数が650万人を超え、これに関連する死亡者数は5,600人以上に及びました¹。この感染者の急増を受け、複数の自治体が非常事態を宣言し、なかには緊急オペレーションセンターを設置した自治体もありました²。2024年の初めには、Dengue 熱ウイルスを媒介し拡散させるネッタイシマカの繁殖地を特定するため、首都に軍隊が派遣されるまでに至りました³。

こうした事態に対応すべく、私たちはブラジル政府と緊密に連携し、タケダの Dengue 熱ワクチンを同国の国家予防接種プログラムの対象とするための方法を模索していきました。ブラジル厚生省との協議は、タケダの Dengue 熱ワクチンが承認される前から始まり、初回の会議は2021年にまでさかのぼります。国家予防接種プログラム局 (DPNI : Department of the National Immunization Program) とともに連絡を取り合い、専門的および技術的情報を共有していきました。また各所への働きかけを包括的に実施するようにしたことで、タケダの Dengue 熱ワクチンを国家予防接種プログラムの対象とするための公開コンサルテーションプロセスに対する言及は、過去一年半に実施された111件の公開コンサルテーション中、3番目に高い投稿数 (2,081件) を記録しました。

こうした協調的なアプローチが奏功し、2023年12月、タケダの Dengue 熱ワクチンをファストトラック承認すること、そして国家予防接種プログラムの対象とすることに、関係する意思決定者の全員が賛成票を投じました。こうした決定は世界初でした。

武田ブラジルのプレジデントであるホセ・マヌエル・カマニョ・イグレシアス プレジデントは次のように述べています。「Dengue 熱の脅威に対抗するため、政府と連携していくことは貴重な経験でした。これを実現できたのは、タケダ全体が強い意思を持って仕事に取り組んだからです。市場参入、棄業、渉外、そして広報の担当者たちが一丸となったことで、Dengue 熱への総合的な取り組みがいかにか患者さんの命と幅広い社会的利益につながるかを強調することができました」

こうした協力し合うタケダの姿勢は、市民社会や医療従事者、保健機関など社外の人々との協力においても、高いレベルで発揮されています。

この Dengue 熱ワクチンが DPNI の対象となるとすぐに、ブラジルの公衆衛生局 (SUS) は、Dengue 熱による入院リスクが高齢者に次いで高い10~14歳を対象としたワクチン接種キャンペーンを開始しました。なお、高齢者へのワクチン投与はまだ承認されていません⁴。現在までにタケダは、2024年分として660万回分、2025年分として900万回分のワクチンを確保しています⁵。将来的には、より幅広い層の人々の接種も可能にしていこうと目指しています。

「Dengue 熱と闘い続けるブラジルにとって、このワクチンを広く提供しようとする取り組みは、Dengue 熱の感染者数と死亡者数を減らす希望となります。この闘いにおいて、公衆衛生当局とタケダとの持続的なパートナーシップは、適切な戦略と協力体制があれば、公衆衛生上の重大な課題も克服できるということを示すなど、極めて重要な役割を果たしています」と、イグレシアスは述べています。

Dengue 熱とは？

Dengue 熱は、ネッタイシマカという種類の蚊に刺されることで感染するウイルス感染症です。

Dengue 熱の症状は？

高熱、頭痛、嘔吐、筋肉痛、関節痛、かゆみを伴う皮疹などがあります。時にはより重篤な出血熱を引き起こし、深刻な場合は死に至ることもあります。

Dengue 熱の脅威が深刻化している理由は？

Dengue 熱は封じ込めが難しいことで知られており、専門家は、気候変動によって感染拡大が加速していると考えています。気温の上昇や雨量の増加、洪水の拡大が、蚊の繁殖に理想的な環境をつくるためです。

出典 : <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/dengue-and-severe-dengue>

世界保健機関 (WHO) による Dengue 熱ワクチンの事前認証

WHOによる事前認証は、優先すべき疾患に対する医薬品の品質、安全性、有効性を評価するための仕組みです。事前認証を受けると、ユニセフや汎米保健機構といった国連機関の調達対象となるため、タケダの Dengue 熱ワクチンが事前認証を受けたことは、このワクチンを世界中にお届けするための重要なステップになります。

1. <https://www.gov.br>
2. <https://agenciabrasil.ebc.com.br>
3. <https://www.reuters.com>
4. <https://agenciabrasil.ebc.com.br>
5. <https://agenciabrasil.ebc.com.br>

医療制度の強化

2: 医療制度の強化

私たちは、医療制度のどこに障壁があるのか、またその障壁に対応するために地域のパートナーとどのように協力できるのかを特定するため、疾患の予防からアフターケアまで、ペイシエントジャーニー（患者さんがたどる過程）のすべてに目を向けています。

インパクトを持続的に創出するため、医療制度の強化においては、
(1) パートナーと協力して地域における障壁を解消すること、
(2) 地域の優先事項に基づいたプログラムにすること、(3) 将来的には地域の医療制度に組み込んでいけるような解決策を考案することを重視します。

ここで大切なのは、互いに信頼できる、強固で効果的なパートナーシップを構築することです。私たちが政府や国際機関、民間団体、広くは医療のエコシステム全体との間に緊密なパートナーシップを築いているのも、それが、現在だけでなく次世代のためにも、持続可能な形で社会的価値を創出することにつながるからです。



ペイシエントジャーニー

タケダでは、ペイシエントジャーニー全体の障壁を解消する活動を通じて、患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させています。また現地の多岐にわたるパートナーと協力し、さまざまなステークホルダーが持つ知見を活用することで、真に地域に根ざした、協力的で持続可能なプログラムを実現しようとしています。



1. 啓発

誤解や間違った情報に対処すべく、地域の文化を尊重した適切なキャンペーンを通じて人々の意識を高めます。



2. 検診

総合的な検診のためのトレーニングとサポートを提供します。包括的な検診を実施できるようにすることにより、障壁となっている疾患特有の壁を取り払います。



3. 診断

質の高い一貫した地域医療を実現するため、医療に従事する人々の能力強化とトレーニングに取り組みます。



4. 治療

早期で広範な医薬品アクセスのためのプログラム、患者支援プログラム (PAP)、体系的な寄付、治療に必要な資金提供のためのさまざまなメカニズムにおけるコラボレーションなどを活用します。



5. アフターケア

患者さんと介護者に持続的かつ適切なサポートを行い、変化していくペイシエントジャーニーに対応できるようにします。

★ ケーススタディ

希少な遺伝性疾患を抱えるベトナムの患者さんのために

グエン・ヴァン・ミンさんは35年もの間、全身に激しい腫れの症状がみられる原因不明の発作に悩まされていました。一度発作が起こると、2～5日間はそれが続き、腫れにより喉が締め付けられ、呼吸が苦しくなります。

ここでご紹介するミンさん（プライバシー保護のため仮名が使われています）のストーリーは、主治医である、Central Military Hospital 108のグエン・ラン・アイン医師から伝えられたものです。ミンさんは、命に関わる希少疾患である遺伝性血管性浮腫（HAE）を患っています。HAE患者さんはベトナムでは1,000人から2,000人いると推定されています。世界の他の国々と同様、ベトナムにおいてもHAEの一般認知度は低く、何年も正しい診断を受けられずにいることも少なくありません。その症状がアレルギーや虫垂炎と誤解されることもあります¹。

タケダは、ホーチミン喘息・アレルギー・臨床免疫学会（HSAACI）と協力し、また日本の国立国際医療研究センター（NCGM）の指導も受けながら、この状況を変えるための活動に注力し、その結果わずか3年で、ベトナムのHAE診断能力を大幅に向上させることができました。これは、医薬品アクセスを改善するために、現地に寄り添い、協力的に、そして持続可能な形で取り組む、タケダのアプローチの一例にすぎません。

このプログラムがスタートした頃を振り返り、武田ベトナムでメディカル アフェアーズ ヘッドを務めるタン・トロン・ソン医学博士は、「2021年は多くの課題に直面していました」と語りました。「HAEと診断された患者さんは1人もいませんでした。理由は、HAEに対する一般的な検査やファミリーテストが一切実施されていなかったからです。当時のハノイには、アレルギーや免疫学の専門性を持つ治療センターが一つしかありませんでした」

現在までに無料の検査を通じてHAEと診断された患者さんは24人で、ミンさんもその1人になります。また、そのうちの3人は、5歳から6歳の子どもでした。HAE検査を受けた人は、これまでに81人のぼっています。

遺伝性血管性浮腫（HAE）は、その名前が示すように遺伝的な疾患です。ミンさんの父親は何年も前に急性発作で亡くなっていますが、今ではそれは喉頭に起きたものだと考えられています。しかし当時は何が起きているのか、どうすれば助かるのか、知るすべはありませんでした。疾患の早期特定においてファミリーテストが極めて重要な役割を果たすのも、そうした理由からです。

こうしてベトナムで行われた複数のステークホルダーによるアプローチも、医療制度を十分に強化するためには、バイシエントジャーニー（患者さんがたどる過程全体）で各障壁を解消する必要があるという考え方を裏付けています。この取り組みは、人々の意識を高め、無料で検査を行い、医療従事者をトレーニングするといった基本的なことから始まります。この取り組みに参加するパートナー各位の協力のもと、現在までに5,600人以上の医師と看護師がトレーニングを受けました²。

現在では、このプログラムを通じてHAEと診断された患者さんは、その急性の症状を緩和する基本的な治療を迅速に受けられる環境にあります。しかし、患者さんの治療成果を大幅に改善するためには、まだまだ多くのことに取り組まなくてはなりません。先進的かつ革新的な治療を受けられるようになれば、同国の患者さんの生活の質は劇的に向上する可能性があります。パートナーは皆、そのことを胸に刻んでいます。

「バイシエントジャーニーには大きな困難があります。知識を積み上げていくには時間がかかりますが、私たちは情熱を絶やさないようにしなければなりません」と、ソン医学博士は述べています。

ハノイとホーチミンには中心的な治療センターが設立され、現在ではベトナム中部の沿岸都市ダナンを皮切りに、他の地域にも支援を拡大しています。ベトナムで私たちが目指す未来は、遠隔地や十分な治療を受けられない多くの地域へと支援を広げ、居住地にかかわらずすべてのHAE患者さんが必要な治療を受けられるような環境を整えることです。



1. <https://www.discoverhae.com>
2. タケダ独自のデータ

ケーススタディ

タイのデング熱対策、デジタルツールで拡大へ

デング熱に効果的に対処するためには、官民双方の取り組みを統合した総合的なアプローチを採用し、疾患のあらゆる段階でのリスクに対応していくことが極めて重要です。予防とワクチン接種はもちろん大切ですが、それだけでなく、この疾患についての意識を高め、そのリスクについて人々に啓発していくことも欠かせません。

タイで活動するタケダのチームは、デジタルツールや技術が急速に普及しているこの国の現状を考慮し、デング熱との闘いにテクノロジーを取り入れながら、変化を続ける切迫した公衆衛生上の課題に取り組んでいます。

気候変動により、ウイルスを媒介する蚊のライフサイクルが延び、2024年にはデング熱の罹患者が急増しました。これにより医療制度が圧迫され、経済的負担が増大し、社会的な影響も生じています。

武田タイのジェネラル マネジャーであるピーター・シュトライブルは、「私たちは、イノベーションとデジタルに焦点を当てることで、タイにおけるデング熱の課題に取り組んでいます」と述べ、予防接種の推進だけでなく、タイ政府との協力のもと、人々の意識を高めるキャンペーンから、デング熱流行の予測と低減に役立つ中央データベースの構築まで、デジタルを活用したさまざまな取り組みが現在進行中であると説明しました。シュトライブルはさらに、「データに基づく包括的な枠組みがあれば、医学界や科学界、そしてタイの政策立案者も、これまでより容易にデング熱対策に優先順位を付け、対応していくことができます。私たちはまた、デジタルチャネルを通じてデング熱の認知度を向上させることで、効果的なインパクトを与え、医療制度を強化し、さらには死亡率と感染を減らす一助にもなろうとしています」と語ります。

人々の意識を高めるキャンペーンでは、ハッシュタグ「#ยิ่งรู้ยิ่งดี ยิ่งปลอดภัย (TheLessYouKnowTheMoreProtectionYouNeed)」を使用しています。これにより、蚊の繁殖地が発生するのを防ぐ方法や、家族を守る方法、免疫システムを強化する方法について、ソーシャルメディア上の信頼できる発言を見つけることに役立ちます。

タイの携帯電話普及率は85%近くと高いため、このキャンペーンを通じて、十分な治療を受けられない地域も含めて膨大な数の人々に、迅速かつ安価に情報を伝えることができました¹。さらに、疾病管理局、保健省、バンコク都庁の公式チャンネルでこのキャンペーンが紹介されたことで、信頼できる情報源を通じてより多くの人々にアプローチすることができました。

デング熱関連データの収集とデータ活用における協調的なアプローチも、成果を挙げています。シュトライブルは「デング熱の流行を予測できれば、より早く対処できるため、より多くの命を救うことができます」と、デング熱ワクチンにも言及しました。さらに、流行を予測できれば特定の地域での感染リスクの増加を医師に警告できるため、誤診を減らすことにもつながると指摘しました。

タイの保健当局とタケダが共同運営するウェブサイト www.knowdengueth.com では、位置情報機能を活用して、デング熱の症例に関する情報を国のデータと合わせてリアルタイムで提供することで、人々が居住地域のデング熱リスクを把握できるようにしています。このツールは、人々の意識と行動を結びつけることで、自分自身と地域社会にとってより安全な選択をする力を人々にもたらします。

私たちは、タイにおいてデング熱の影響を長期的に軽減する一翼を担うことに、強い決意で臨んでいます。これについてシュトライブルは、「これは長い道のりであり、『終着点』はまだ見えそうにありません。デング熱から人々を守り、インパクトをもたらす変化を創出していこうとする中で私たちができることは、まだまだたくさんあるのです」と述べています。

1. <https://www.statista.com/statistics>

統合的な 事業戦略を通じた 持続的な インパクトの創出

3: 統合的な事業戦略を通じた持続的なインパクトの創出

公平な医療の実現に向けた永続的な取り組み

患者さんに医薬品をお届けするためのタケダの取り組みの根底には、2世紀以上にわたって私たちを導いてきた、すべての人々に価値を創出するという「三方よし」の理念があります。

私たちは現在、この考え方に基づいて医薬品アクセス向上のためのアプローチをとり、世界中の患者さんと地域社会に貢献する公平で持続可能な解決策を追求しています。またこのアプローチは、持続可能な事業成長のための基盤にもなっています。事業のあらゆる側面に医薬品アクセスの観点を取り入れることで、革新的な医薬品を低中所得国の患者さんに末永くお届けできるようにしているのです。

医薬品アクセスの観点を取り入れることは、単なる形だけの対応に留まりません。私たちはこれによって、実際により良い成果を創出しています。誠実：公正、正直、不屈というタケダイズムに導かれた私たちにとって、医薬品アクセス向上のためのアプローチの出発点に「三方よし」があるのは至極当然のことです。私たちはこの「三方よし」の理念を通して、現代の世界的格差に取り組み、タケダの伝統を大切にしつつ、患者さんの暮らしに長期的に貢献していきます。

今年度のレポートで紹介する Dengue 熱への取り組みはすべて、この統合的な事業戦略を原動力として進められています。この後紹介する、インドネシアでの Dengue 熱ワクチン普及のための取り組みも、このアプローチの一つの実践例になります。



ケーススタディ

アクセス向上のために：インドネシアにおけるデング熱管理の総合的なアプローチ

世界で最も人口が多く、人口密度が高い地域の一つであるインドネシア。この国では数十年にわたってデング熱との闘いが続いています。それにもかかわらず感染者は急増しています¹。そこで、デング熱に対処するための、広く展開しやすい新たな解決策が、これまで以上に緊急で求められています。必要なのは、デング熱の蔓延を防ぐための、国家レベルでの総合的かつ協調的なキャンペーンです。

タケダのチームはジャカルタを拠点に、インドネシア保健省、国営のワクチン製造会社であるBio Farma、グローバル機関、ヘルステック企業などと協力し、多角的な取り組みを行っています。

「ここで注目すべきは医薬品アクセスです」と、武田インドネシアのジェネラル マネジャーであるアンドレアス・グートクネヒトは述べています。タケダのデング熱ワクチンは2022年8月に、世界に先駆けてインドネシアで承認されました。「私たちに当初から、公衆衛生向上のために貢献できる機会がどこにあるのかが分かっていました。そうして、この疾患による負担を軽減するため、私たちにできることを実践してきました。私たちの活動も、パートナーシップも、単に人々にワクチンを届けることだけには留まっていません」

気候変動や都市化により、デング熱の感染者数は世界的に増加しています。気温の上昇、降雨量の変化、急速な都市の発展により、蚊の繁殖期が延び、生息に適した環境も拡大しています。世界で4番目に人口の多いインドネシアは、その深刻な影響を受けています。「年齢やライフスタイル、居住地にかかわらず、あらゆる人々にデング熱感染のリスクがあります。デング熱の大流行は、以前は雨季に限られていましたが、今では1年中発生しています²」と、グートクネヒトは指摘します。

「私たちに当初から、公衆衛生向上のために貢献できる機会がどこにあるのかが分かっていました。そうして、この疾患による負担を軽減するため、私たちにできることを実践してきました。私たちの活動も、パートナーシップも、単に人々にワクチンを届けることだけには留まっていません」

アンドレアス・グートクネヒト
武田インドネシア ジェネラル マネジャー



1. <https://www.who.int>
2. <https://www.channelnewsasia.com>

ケーススタディ(続き)

インドネシアは、その地理的条件から、他の国とは異なる課題を抱えています。同国は約18,000の島々からなる群島国家で、そのうち人が住んでいる島は約6,000島に及んでいます。そのため人々に医療を届けることは、物理的にも、また管理の面でも、難しい状況にあります。デング熱の影響は特に子どもたちに及んでおり³、その社会的・経済的な損失は計り知れません⁴。

こうした課題に対処するため、私たちは、官民のさまざまな機関と協力し、統合的な事業戦略を展開することで、デング熱への人々の意識を高め、蚊の繁殖を抑える活動を強化し、ワクチン接種を含む予防策の促進に取り組んでいます。

「インドネシアのような国では、人々を巻き込むことで大きな機運を創出することができます」と、グートクネヒトは話します。「このアプローチは、マーケティングチームの戦略としてでも、市場参入の戦略としてでもなく、治療薬やワクチンをより多くの人々にお届けするというただ一つの戦略に、全社を上げて注力することで、効果を発揮します」

この取り組みは成果を挙げつつあります。東カリマンタン州バリクパパンでは2023年11月から、最初の地域プログラムとして、学校に通う子どもたちへのデング熱ワクチン接種が始まり、9,800人もの子どもたちにワクチンが投与されました⁵。これは、タケダとBio Farmaとの戦略的パートナーシップによるもので、その後、東カリマンタン州保健局は、8歳から10歳の子ども2,750人を対象に、州都サマリタヘとワクチン投与の地域を拡大しました。

2024年9月には、東ジャワ州プロボリンゴの保健局が、1,120人の小学生を対象とした新たなプログラムを開始しました。

タケダでは、ワクチンの価格を手ごろな範囲に設定することで、全国規模でワクチンを接種しやすい環境を作っています。そうすることで、さまざまな機関との連携を通じて、インドネシアの労働者とその家族、さらには学校や地域社会の人々へと、ワクチン接種者の幅を広げられるようになりました。

しかし、ワクチンは解決策の一部にすぎません。#Ayo3MPlusVaksinDBDキャンペーンを通じて、私たちはインドネシア保健省と連携し、デング熱の予防と治療について、一般市民、ソーシャルワーカー、医師の意識を高め、新たな知識を提供する活動を実施しています。さらに、媒介生物の封じ込めプログラムの重要性も繰り返し訴えています。このプログラムは、溜まっている水を流し、学校や職場など、感染リスクの高い場所での蚊の繁殖を抑えるよう地域の人々に啓発することで、蚊の繁殖を抑制しようというものです。

私たちはヘルステック企業とのパートナーシップにより、数千万人もの人々に声を届けられるようになりました。おかげで、正確な情報を伝えられるようになり、一度デング熱に感染すれば免疫がつくというような迷信を払拭する活動も進められるようになりました。「インドネシアでは古くからある疾患にもかかわらず、デング熱に関わる誤った情報が未だに多く残っています。デング熱の流行を防ぎ、予防を促進するには、この問題に取り組むこと、とりわけ必要な医療が届きにくい地域でこの問題に取り組むことが重要になります」と、グートクネヒトは述べています。

予測モデリングの改善に向けた政府との緊密な連携から、微生物のボルバキアを用いて蚊の繁殖を操作して感染率を抑えるといった革新的アプローチの支援まで、必要な取り組みは数多くあります。後者の取り組みは、Health Caucus of Parliamentとインドネシア保健省が主導し、タケダが創設メンバーを務める協働パートナーシップの一環として行われます。これについてグートクネヒトは、「デング熱との闘いで何らかの役割を担っているすべての人々が協働する取り組み」だと語ります。

この国のデング熱のような、地域的特色があり、複雑で、進化も続ける疾患に対処していくには、社内だけでなく、社外の機関とも協力し、総合的に取り組んでいかなければなりません。「タケダは240年以上の歴史を持つ企業なので、非常に長期的に物事を考えています。デング熱のような疾患の克服は、一つの時代丸ごとを要する大仕事です。私たちはそのことを深く理解しています」と、グートクネヒトは結びました。

3. <https://www.worldmosquitoprogram.org>

4. <https://bmcinfectdis.biomedcentral.com>

5. タケダ独自のデータ

パートナーの 視点

すべての人々に医薬品アクセスを： 気候変動が医療に及ぼす影響に対処する

非営利団体である顧みられない病気の医薬品開発イニシアティブ（DNDi）は、主に世界の最貧困層が罹患する顧みられない熱帯病（NTDs）に対する有効で手の届きやすい価格の治療薬の開発を加速させるため、2013年よりタケダとパートナーシップを結んでいます。

DNDiのポリシー アドボカシー マネジャーであるリティカ・ダッタ氏は、タケダの医薬品アクセス オフィスとの対談の中で、NTDsに取り組む上でこうしたパートナーシップがいかに重要であるかを、特に気候変動の影響を踏まえて考察しました。

Q 医療へのアクセスを強化する取り組みにおいて、パートナーシップはどのような役割を果たしていますか？

A パートナーシップは、私たちの取り組みの中核をなすものです。私たちは、NTDsが蔓延する地域において医療へのアクセスにイノベーションを起こし、状況を改善していくため、さまざまな分野のパートナーを集結させ、オーケストラを結成しているようなものだと考えています。

タケダのような製薬企業とのパートナーシップでは、特に研究開発部門を通じて、その豊富な専門知識に触れることができます。このようなパートナーシップがあれば、私たちが単独で実施するよりも遥か先まで進むことができるため、顧みられることの少ない疾患に革新的な解決策を見つけられる可能性も高くなります。

Q 気候変動の影響を受けやすい地域について言及されていますが、気候変動は疾患の蔓延や深刻さにどのような影響を及ぼしているのでしょうか？また、最も懸念される影響とはどのようなものなのでしょうか？

A 気候変動は、特に生物が媒介する疾患に影響を与えます。またその多くがNTDsに該当しています。以前は流行が抑えられていた地域でも、現在ではこれまでより速く、また頻繁に、感染が広がるようになっています。例えばデング熱の発生は、以前は特定の地域に限られていましたが、今ではアメリカ、ヨーロッパ、日本などでも発生するようになっています。

特に懸念されるのは、気候変動の影響で健康格差がさらに広がっていることです。気候変動の影響は、最も弱い立場に置かれた人々、つまり必要な医療を十分に利用できない環境にある人々に最も強く及んでいます。例えばデング熱の流行は、ラテンアメリカ、南アジア、西太平洋地域でより一般的になりつつあります。同様に、リーシュマニア症のようにサンショウバエが媒介する疾患も、気温や降雨量の変化による影響を受けます。気候変動は、媒介生物と感染にも影響を及ぼします。

「このようなパートナーシップがあれば、私たちが単独で実施するよりも遥か先まで進むことができるため、顧みられることの少ない疾患に革新的な解決策を見つけられる可能性も高くなります」

リティカ・ダッタ

顧みられない病気の医薬品開発イニシアティブ（DNDi）
グローバル ポリシー アドボカシー マネジャー



Q 気候変動の影響を受けやすい疾患には、世界的にどのように対応すべきでしょうか？ 私たちにもっとできることはありますか？

A 世界規模での効果的な対処に必要なのは、逆境に負けないしなやかな強さを持つ医療制度の構築、国際的な連携の強化、革新的な医療への公平なアクセスの確保に焦点をあてるなど、多面的な取り組みです。媒介生物の封じ込めと予防は極めて重要ですが、それだけでは十分ではありません。早期対応、モニタリング、警告システム、診断、治療、ワクチンの接種を含めた、包括的なアプローチが必要です。

気候変動の最前線にいるのは地域社会の人々です。ですから私たちは、そうした人々を中心に対応策を考えなくてはなりません。例えば、グローバルサウス（南半球に位置するアジアやアフリカ、中南米地域の新興国・途上国の総称）特有の疾患の場合、現地のニーズや状況に沿った解決策を生み出すには、現地の機関との協働が極めて重要になります。

特に市場から顧みられない疾患に関しては、イノベーションが不可欠です。デング熱もその一例ですが、注目すべき疾患でありながら、デング熱ほど知られていない疾患も、世界には数多くあります。このような疾患が高所得国でも広がると、資源配分やイノベーションは進むでしょうが、新型コロナウイルス感染症の例で明らかのように、それで医薬品アクセスの問題が解消されるわけではありません。イノベーションだけでは十分ではないのです。重要なのは、最も大きな打撃を受ける人々も、そうした新しいツールを利用できるような政策です。

グローバルサウスにおいては、インフラを整備し、そこに暮らす人々が増え続ける疾患に対処していけるようにする必要があります。これらの生物媒介感染症の多くは、特定の治療方法が存在せず、現在ある承認されていない医薬品による治療法では、それが有毒になることがあるか、あるいは投与方法が複雑であるかのどちらかです。そのためこうした疾患に対処するには、安全で、効果的で、手の届きやすい価格で、高温や多湿、停電といった環境にも耐えられる治療方法を開発する必要があります。これが実現すれば、医療制度の負担を軽減することも、他の疾患を抱える患者さんに医療リソースと病床を回すことも可能になります。

Q 政策立案者、行政、製薬企業、その他の主要なステークホルダーに対して、どのような行動を求めますか？

A 私たちは、顧みられることが少なく、気候変動の影響を受けやすい疾患への注目を心から必要としています。これらの顧みられない疾患への生物医学的イノベーションを推進し、それらを優先事項とすることが極めて重要です。2024年の世界保健総会で採択された気候変動と健康に関する決議では、研究開発と医療を利用しやすい環境に関する言及がなされています。これは正しい方向への第一歩ですが、今後はさらに活発な議論を行い、その優先度を上げていく必要があります。

また、気候変動に合わせて対応を変えていく適応策だけでは、課題の根本的解決にはなりません。気温が一定の基準を超えてしまえば、適応策だけではすまなくなります。だからこそ私たちは、緩和戦略と適応戦略の両方に同時に注力する必要があります。この二重のアプローチこそが、私たちが真に求めるものです。

製薬企業は、気候変動の影響を受けやすい疾患のためにイノベーションを起こしていく上で重要な役割を果たすことができます。より環境に優しい製品や製造方法を特定すべく研究開発に投資することもその一つです。さらに、サプライチェーンを強化し、異常気象など気候に関係する混乱に対応できるようにすることも可能です。感染症の流行時にはパートナーと協力し、必要な医薬品や医療キットが患者さんのもとへ届けられるようにできれば、逆境に負けない医療制度を構築し、気候の影響を受けやすい地域の人々をより効果的に支援することができます。



未来を 見据えて

医療の未来を切り開き、 医薬品アクセスを加速する



タケダはグローバルヘルスを推進する企業として、世界でも特に急を要する医療ニーズに応えられる、有効性の高い治療薬やワクチンを開発し、提供することを使命としています。また私たちは、そうした革新的な治療薬やワクチンが、持続可能かつ公平な形で世界のすべての患者さんに届けられるよう、全力を尽くしています。

しかし、有意義な医薬品アクセスに立ちはだかる課題は、近年ますます表面化しつつあります。サプライチェーンの断絶のような新しい課題も登場しています。これらは、異常気象など気候変動に伴う事象により悪化するもので、それが流通ネットワークへのさらなる負担要因になっています。さらに、インフラには限界があり、製造や保管においては環境的影響も受けることから、患者さんに必要な医薬品を安定してお届けするための活動は複雑化する一方です。

このように課題は増え続けていますが、それでも私たちの断固とした姿勢が変わることはありません。タケダが目指す世界は、すべての人々が健康と経済的なウェルビーイングの両方を選択できる世界、そして革新的な医薬品を利用できることが特権ではなく、基本的な権利である世界です。

私たちは自らの役割を果たすべく、医薬品アクセス向上のためのアプローチを策定し、そのアプローチを事業戦略に組み込み、さらに研究開発の初期段階から臨床試験、上市戦略に至るまで、製品ライフサイクル全体に取り入れることで、患者さん、社会、そしてタケダの事業にとって意味のあるインパクトを創出しようとしています。

さらに、私たちの前進を測定する新しく効果的な方法を模索しつつ、私たちのプログラムによる幅広い社会的インパクトをより正しく評価できるように努め、医療への積極的な取り組みが患者さんとその地域社会の両方にプラスの影響をもたらすことを確認しています。

タケダは、個々の状況にかかわらず誰もがより良い健康とウェルビーイングのために必要な医薬品を利用できるような未来を目指し、これからも全力を尽くします。私たちが力を合わせれば、意味のある変化をもたらし、より健康的で公平な世界の実現に貢献できるはず です。

「タケダが目指す世界は、すべての人々が健康と経済的なウェルビーイングの両方を選択できる世界、そして革新的な医薬品を利用できることが特権ではなく、基本的な権利である世界です」

Gamze Yucelard

ガムゼ・ユスランド

タケダ グロス&エマージング マーケッツ ビジネスユニット
プレジデント



医薬品アクセスプログレスレポート 2024

2024年11月 C-ANPROM/GEM/CORP/0092